

第 152 回

中小企業景況調査報告書(概要版)

平成 29 年 7 月～ 9 月実施
 平成 29 年 10 月～ 12 月予測
 福岡県商工会連合会

この調査は、中小企業の景気動向について、その実態と要因を四半期ごとに分析し、業種間の比較によって差異分析を行い、その分析結果に基づき、今後の経営活動の健全な発展を図るために業種別の景況情報を提供する。

1. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接聞き取り調査
2. 調査時点 平成 29 年 6 月 1 日(木)
3. 調査対象時期 平成 29 年 4 月～6 月
4. 調査対象企業 久山町・太宰府市・粕屋町・うきは市・みやま市・大木町・遠賀町・築上町・小竹町・添田町の各商工会地区 150 企業
5. 回答企業 150 企業 (有効回答率 100%)

業 種	区 分	調査対象		有効回答	
		企 業 数	構 成 比	企 業 数	構 成 比
製 造 業		29	19.3%	29	19.3%
建 設 業		22	14.7%	22	14.7%
小 売 業		44	29.3%	44	29.3%
サ ー ビ ス 業		55	36.7%	55	36.7%
合 計		150	100.0%	150	100.0%

県下産業全体 (業況:売上額 D.I)

まだまだ厳しい状況であるが、建設業は、回復の兆しも見える福岡県の中小企業景況

期間	製造業		建設業		小売業		サービス業	
平成 28 年 4 月～6 月		△20.7		0.0		△9.1		△20.0
平成 28 年 7 月～9 月		△13.8		31.9		△25.0		△20.0
平成 28 年 10 月～12 月		△34.5		18.2		△50.0		△11.1
平成 29 年 1 月～3 月		△34.6		9.5		△31.8		△1.9
平成 29 年 4 月～6 月		△24.2		13.7		△23.3		△9.0

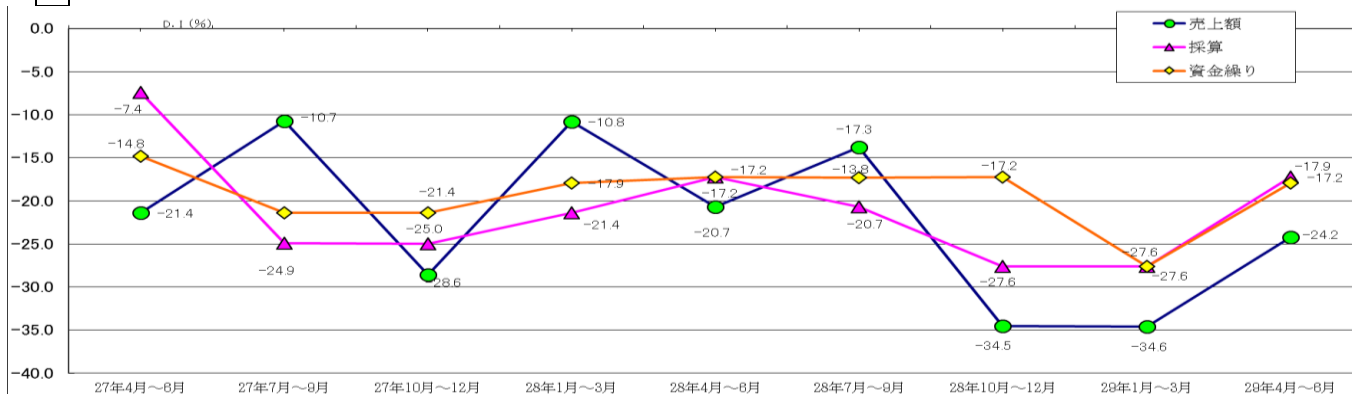
<天気図の見方>

D. I 値	100.0～30.1	30.0～10.1	10.0～△10	△10.1～△30	△30.1～△100
表示	【快晴】 +30.1 以上	【晴れ】 +10.1 ～30.0	【薄曇り】 △10.0 ～10.0	【曇り】 △30.0 ～△10.0	【雨】 △30.1 ～△100

県下産業全体の売上額 D.I 値を前年同期（平成 28 年 4 月～6 月）と比較すると 1.2 ポイント改善、前回調査時（平成 29 年 1 月～3 月）と比較すると 2.5 ポイントの改善となっている。前年同期からの改善の要因は、製造業で 3.5 ポイント、小売業で 14.2 ポイント悪化したものの、建設業で 13.7 ポイント、サービス業で 11.0 ポイント、改善したためである。また、前回調査時からの改善の要因は、サービス業で 7.1 ポイント悪化したものの、製造業で 10.4 ポイント、建設業で 4.2 ポイント、小売業で 8.5 ポイント、改善したためである。産業全体の売上額 D.I 値は前回調査に引き続き、今回の調査でも改善している。

☑ 製造業（有効回答数 29 企業）

売上額の増加で全体的に改善し、採算・資金繰りも改善の兆しがある製造業



<調査企業が感じている景気判断コメント>

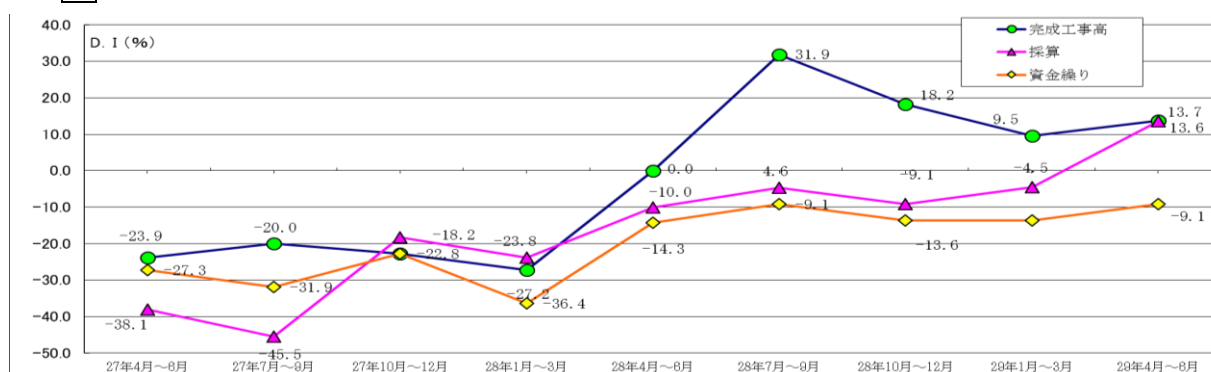
- ・業界の価格競争は、通販などにより激化。顧客のニーズの再把握で、新事業に取り組んでいる。
- ・景気の低迷により、受注数が減少した。
- ・前年と同様、木造住宅建築についてのハウスメーカー等との企業間競争が一段と厳しくなっている。

<経営上の問題点>

前期		今期	
第 1 位	原材料価格の上昇 29.6%	第 1 位	製造ニーズの変化 24.0%
第 2 位	需要の停滞 14.8%	第 2 位	需要の停滞 20.0%
第 3 位	生産設備の不足・老朽化 14.8%	第 3 位	大企業の進出による競争の激化 16.0%

☑ 建設業（有効回答数 22 企業）

完成工事額の増加で、採算の好転の兆しがみられる建設業



<調査企業が感じている景気判断コメント>

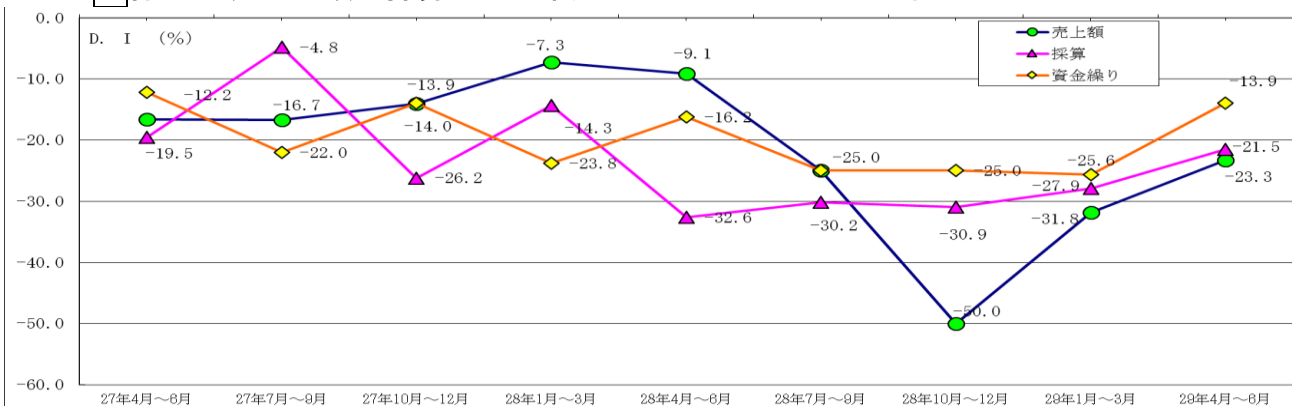
- ・公共事業者の受注が減少している中、会社を存続させていくため、この状態では不安である。
- ・現在は、消費増税の駆け込み需要により受注がとれているようだが、増税したときの反動が怖い。
- ・公共工事の受注高の増減により経営状態が変動する。

<経営上の問題点>

前期		今期	
第 1 位	熟練技術者の確保難 25.0%	第 1 位	官公需要の停滞 27.8%
第 2 位	官公需要の停滞 20.0%	第 2 位	材料価格の上昇 16.7%
第 3 位	民間需要の停滞 15.0%	第 3 位	請負単価の低下、上昇難 16.7%

☑ 小売業（有効回答数 44 企業）

全体的に、売上額・採算とも好転の兆しがみられる小売業



<調査企業が感じている景気判断コメント>

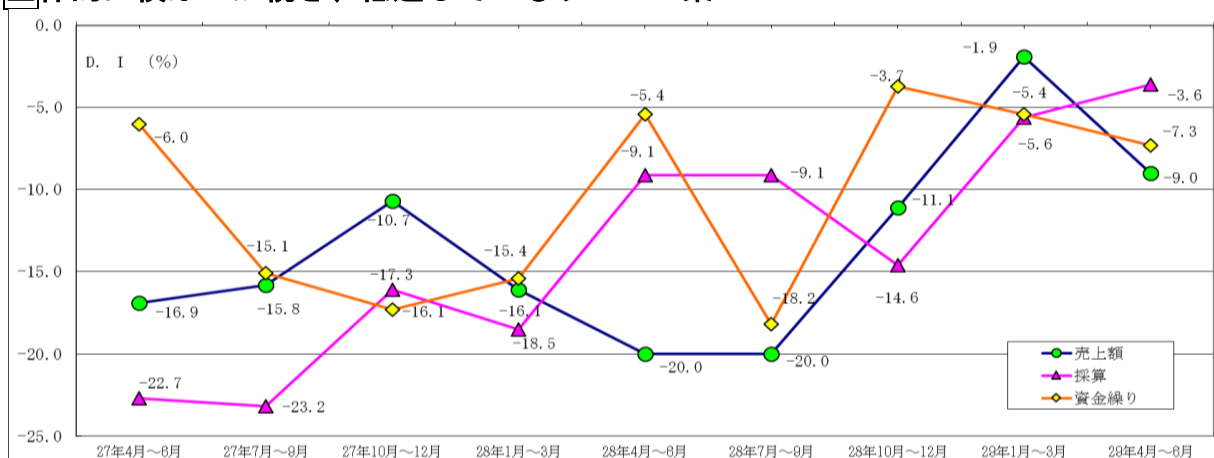
- ・ 利益率を上げるよう今期は努力している。売上を伸ばし利益を出さないと、苦しい状況は変わらない。
- ・ 6月からの値上げの動きによって業界の変化とそれにかかる動向で大きく変化があるので、様子見をしている。
- ・ 消費者の考え方が大きく変化が起きている。根本的な販売の仕方、商品の揃え方、価格等内容を考え直す必要がある。

<経営上の問題点>

前期		今期	
第1位	大型店・中型店進出による競争の激化 21.6%	第1位	大型店・中型店の進出による競争の激化 25.0%
第2位	需要の停滞 16.2%	第2位	購買力の他地域への流出 12.5%
第3位	仕入単価の上昇 16.2%	第3位	需要の停滞 12.5%

☑ サービス業（有効回答数 55 企業）

全体的に横ばいが続き、低迷しているサービス業



<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・ 人件費が上がるので、スタイリスト2人だけで、どう売上を増やしていくか課題である。
- ・ スナックの方が、従業員を増やし、売上を上昇させていきたいので、イベントも行い、お客様に満足していただくよう努力していく。
- ・ 国の方針で人件費を増加させているが、今後の見通しが不透明で継続していけるか心配である。

<経営上の問題点>

前期		今期	
第1位	店舗施設の狭隘・老朽化 15.7%	第1位	利用者ニーズの変化 19.1%
第2位	利用料金の低下、上昇難 13.7%	第2位	従業員の確保難 17.0%
第3位	従業員の確保難 13.7%	第3位	需要の停滞 10.6%